

有機JAS適合資材 大和培養液Cを使った農業は未来の扉を開く

①現状及び展開として

国内の化学農薬は、年間4,000億円以上の市場で、4分の3をJAグループが販売し圧倒的な販売力です。しかしながら、昨年7月に農林水産省が施行した、みどりの食料システム戦略により、減農薬の方向性に舵を切った。

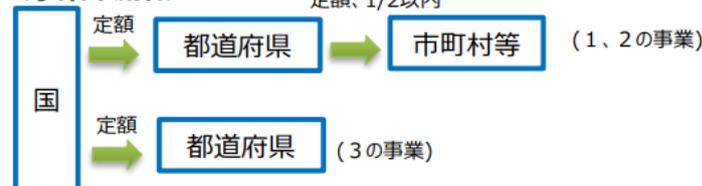
※オーガニックヴィレッジ事業を含め、今後、減農薬、無農薬、有機農法に対する補助金が増える事が予想されます。

②みどりの食料システム戦略による補助事業

1, オーガニックヴィレッジ事業（事例）



<事業の流れ>



オーガニックヴィレッジを中心に、有機農業の取組を全国で面的に展開

2, 環境保全型農業直接支払交付金（事例）

※化学肥料・化学合成農薬
5割以上低減
※地球温暖化防止
メタンガス削減など

取組の環境保全効果の例

【地球温暖化防止】

農地に還元された堆肥やカバークロープの一部が土壌有機炭素となり、土壌中に貯留され、地球温暖化防止に貢献します。

【生物多様性保全】

化学肥料・化学合成農薬を使用しない有機農業や、農薬の削減と組み合わせる水管理などを行うことによって、様々な生物を地域で育み、生物多様性保全に貢献します。



地域特認取組※5	交付単価 (国と地方の合計)
地域の環境や農業の実態等を勘案した上で、都道府県が申請を行い、地域を限定して支援の対象とする取組	都道府県が設定
※5 対象取組や交付単価は、都道府県により異なります。詳細は、都道府県、市町村にご確認ください。	
取組拡大加算	交付単価 (国と地方の合計)
有機農業（そば等雑穀、飼料作物以外）に新たに取り組む農業者の受入れ・定着に向けて、栽培技術の指導等の活動を実施する農業者団体を支援 活動によって、新たに有機農業の取組を開始した農業者の有機農業の取組面積に応じて支援	新規取組面積あたり 4,000円/10a

全国共通取組		交付単価 (国と地方の合計)
有機農業	そば等雑穀、飼料作物以外 このうち、炭素貯留効果の高い有機農業を実施する場合に限り※1、2,000円を加算。	12,000円/10a
	そば等雑穀、飼料作物	3,000円/10a
堆肥の施用※2		4,400円/10a
カバークロープ		6,000円/10a
リビングマルチ (うち、小麦・大麦等)		5,400円/10a (3,200円/10a)
草生栽培		5,000円/10a
不耕起播種※3		前作の畝を利用し、畝の播種部分のみ耕起する専用播種機により播種を行う取組 3,000円/10a
長期中干し※4		14日以上の中干しを実施する取組 800円/10a
秋耕※4		主作物の収穫後（秋季）に耕うんをする取組 800円/10a

※1 「炭素貯留効果の高い有機農業」を選択する場合、土壌診断を実施するとともに、堆肥の施用、カバークロープ、リビングマルチ、草生栽培のいずれかの取組を行っていただきます。
 ※2 堆肥の施用とは「炭素貯留効果の高い堆肥の水質保全に資する施用」のことをいいます。都道府県によって交付単価が異なる場合がありますので、都道府県、市町村にご確認ください。
 ※3 対象作物は、麦（小麦、二条麦、六条大麦及びはだか麦）、大豆です。
 ※4 対象作物は、水稻です。

③日本の農業に関する大きな環境変化にも関わらず、多くの農業資材を販売するJAグループには、有機JAS適合資材の取り扱いが少ないのが現状です。



④慣行農法で使用しても大きく収穫量が増え、減農薬、無農薬の一助になるのが、有機JAS別表1適合資材、大和培養液C PROです。

⑤大和培養液C PROは、弊社独自のバチルスベレゼンシスYBL2株とYBL2株が増殖時に生成する3種類の環状リポペプチド等の培養液です。

⑥YBL2株は、土壌内でグラム陽性微生物（シアノバクテリア、乳酸菌、酵母菌、放線菌等）とは共生増殖しながらも、土壌内のカビ（糸状菌）、各種ウイルス、大腸菌、カンピロバクター、レジネラ菌等は除菌し、作物の成長性を高め、病気抑制に適した土壌環境を作ります。

⑦大和培養液C PROは、オーガニックヴィレッジ事業、環境保全型農業直接支払交付金のすべて取組に対応出来ます。

低コスト

大和培養液C PROを1~2,000倍希釈して
10aあたり200ml散布するだけ

大和バイオテック

検索



科学的なエビデンス・豊富な収量比較データをホームページでご覧ください。



※定植後でも収量は増えます。※液肥・農薬を希釈後は、併用も可能です。

お茶 秋冬番茶

鹿児島県
散布回数:1回
試験区と対照区の比較
(試験区:散布あり 対照区:散布なし)

150.3%増



成長比較

約4週間で、対照区との差は2.1cm
対照区と比較した成長率は125.9%

反収(10a)当たりの茶葉の収量

試験区:980kg 緩衝区:765kg 対照区:652kg
試験区と対照区を比較した収量増率:150.3%

カーネーション

佐賀県
散布回数
ピンクピジョン:6回 ピジョン:3回
昨年と今期の比較

182%増

(2022年11月～2023年3月採花数)

ピンクピジョン	ピジョン
昨年:11,677	昨年:7,694
今期:17,910	今期:13,992
今期:153%増	今期:182%増

一株の採花数

ピンクピジョン	ピジョン
昨年:2.7	昨年:2.3
今期:4.1	今期:4.2



じゃがいも

鹿児島県
散布回数:1回(定植前)
昨年と今期の比較
(圃場全体に散布しているので、
収量比較はしていません。)

試験区の生育状態

- ①葉は濃い緑色で棟の隙間が見えないくらい成長
- ②葉は大きく順調な育成状態
- ③欠株がなく、均一の高さに成長



収穫量比較

昨年の収量(無散布)
昨年は、好天で10aあたり4,000kg弱の収穫量

今年の収量(定植前に1回散布)
昨年と比べて雨が多く悪天候であったが、
10aあたり4,200kg程の収穫量



※昨年の10aあたりの収量の平均:全国3,240kg 北海道3,750kg

ねぎ

佐賀県
散布回数:2回(定植前と成長期)
試験区と対照区の比較
(試験区:散布あり 対照区:散布なし)

試験区

対照区



試験区と対照区の収穫時期がことなるため、収量比較はしていません。

試験区の生育状態

- ①葉は濃い緑色で茎が太い
- ②先端の枯葉が少ない
- ③収穫時期は、7日～10日の差がでた

トマト 大玉

鹿児島県
散布回数:月1回
(8月～1月)
昨年と今期の比較

181.6%増



昨年との比較

- ①農薬の回数は、12回(18種)から4回(8種)に減少(定植時期～3月まで)
- ②2月～3月の大玉の収穫量は対照区の181.6%増

大玉トマトの収穫量比較

収穫時期	期間	収穫数	前期比
2月	前期	1,400	138.4%
	今期	1,938	
3月	前期	1,396	224.9%
	今期	3,140	
合計数量	前期	2,796	181.6%
	今期	5,078	

サツマイモ

長崎県
散布回数:1回
(マルチの隙間から散布)
試験区と対照区の比較
(試験区:散布あり 対照区:散布なし)

約130%増

試験区



対照区



対照区との比較

- ①葉は濃い緑色
- ②欠株なく葉もビッシリで、蔓も太い
- ③収穫量は、対照区の約1.3倍

～生産者様のコメント～

試験区の茎の成長が良い。
葉が多く、葉も大きくて濃い緑色。

僅か1カ月弱でマルチの上からでも差が出ている事に、大変驚いています。